

剣道

No.168
三木市剣道連盟
広報部
4・5・6月号
2014(平成26)年6月23日発行

- 第37回東播少年剣道大会(1面)
- 審判講習会、安栖先生を偲ぶ(2面)
- 別所公春祭り剣道大会(3・4面)
- 中兵庫少年剣道大会、級位認定審査会(5面)
- 東播高校春季剣道大会(6面)
- 新会長に神澤氏 新旧会長退任、就任挨拶(7面)
- 昇段者紹介・選手強化会・月々の便り(8面)

地元明石圧勝！(中学生の部)

小学生男子は印南剣道場(加古川市) ―第37回東播少年剣道大会―

平成25年度最後にして東播地区最大の剣道大会、「第37回東播少年剣道大会」は、平成26年3月23日(日)、明石市立明石中央体育会館を会場に行われた。

参加チームは、小学生団体、男子41、女子27チーム、中学生団体、男子(3人制)31、同女子21チームであった。

我が三木市からは、小学生男子6チーム、女子3チーム、中学生男子3チーム、がエントリーした。層の薄い女子の出場は、中学生に女子のチームがないことでわかるように、他市と比べると少なかった。

(1) 試合に先立つ開会式には、明石市副市長を始め、地元選出県議会議員4名を含む来賓が約30名、ずら

りと顔を揃え、壮観だった。

大会会長、地元明石市剣道連盟神成富雄氏の後に、兵庫県剣道連盟会長河野修一郎先生も挨拶に立たれた。

平野武彦審判長の号令で、6試合場一斉に始まった試合では、三木勢が一番多く出場している小学生男子団体に注目が集まった。

別所健闘ベスト8

(小学生男子の部)

三木市剣道連盟傘下の各教室は、それなりに健闘し、1回戦で「高丘剣道教室(明石)」に敗れた自由が丘を除き、みな緒戦を突破した。

別所チームは、第4試合場の第一試合で、加西の「北条少年剣修

会」を次鋒二杉、大将中本の活躍で2-0と快勝、続く2回戦では、「北野少年剣道教室」(加古川市)を1-0の僅差で斥け、三回戦に進出した。貴重な一本を奪ったのは、次鋒二杉の出小手である。

ベスト8進出がかかった第3戦の相手は「東加古川剣心会」、2-1で勝ち、ついにベスト8に。4回戦は選手層の厚い高砂市の「剣誠会」、これにはさすがの二杉も引き分けに終わり、0-3で一方向的に敗退した。

第1試合場の緑が丘も、いい試合をした。第一戦、西脇・多可の「中町剣道スポーツ少年剣道クラブ」を3-0で降し、続く明石の「大和製衡若葉会」には5-0で一蹴して勢いに乗ったが、優勝した加古川の「印南剣道場」には、反対に0-5で完敗した。敗れながら相手の印南剣道場のスピード、手数に賛辞を惜しまず、大いに期するところがあるようだった。

他に志染は、1回戦「氷丘少年剣道教室」に勝ったものの、2回戦では高砂の「春風館」に行く手を阻まれた。

三木中央も緒戦、高砂の「誠会」

を退けたが、2回戦で小野「柳心館」(準優勝)にはかなわなかった。小学生女子は、志染・三木中央・緑が丘の3教室がエントリーしたが、それぞれ1回戦負けを喫し、レベルの差を痛感する試合運びだった。

中学生男子の部では、優勝経験を持つ吉川チームが期待されたが、緒戦「あけぼの少年剣友会」を1-0で破り、続く2戦目、「尾上剣友会」(加古川)にも1-0で競り勝ったものの、ベスト4を賭けた試合で、優勝候補筆頭の「大蔵剣友会A」には2-0で押し切られた。

結局「大蔵剣友会A」は優勝、準優勝は同じ明石市の「剣道場明武館」だった。「大蔵剣友会」は女子でも優勝、準優勝の「二見北剣道教室」も含め、中学生の部で地元明石勢は圧倒的な強さを見せた。大会閉会式で挨拶に立った高橋洋三大会副会長は、「今回は三木市が当番、三木市が会場です。お互いそれまで切磋琢磨しましょう。」と大会を締めくくった。

三木剣連に所属する各教室は、健闘はしたが、あと一步他市に及ばないところがあり、今後の課題を残した。試合慣れた他市の選手に比べ、足捌き、試合の駆け引き、決定的な1本の決め方、残心などレベルアップが必要であり、次回会場市として、三木剣連全体で選手強化に取り組む必要を感じた。

(報告 高橋洋三)

審判講習会を開催

5月の「別所公大会」で始まる平成26年度、諸々の試合に向けて、多くの一般会員の審判技術の向上を目指し三木市剣道連盟の組織を挙げて取り組まれた「平成26年度審判講習会」が、4月13日(日)、三木加佐コミュニティスポーツセンターを会場に行われ、一般会員30名、高校生22名が参加しました。

講師は、会長が委嘱した、小椋治朗(教士7段)・田畑修(教士7段)の両先生。他に神澤副会長、黒田忠夫の両先生も講師の手助けをされました。

開講式で高橋会長は、「高段者になればなるほど、審判として謙虚に自らを律し、試合者に対して誠実に取り組む姿勢が大切ではないか。」と自ら参加した「社会体育指導員講習会」における8段の講師の先生方の立派だったことを例に話しました。

小椋・田畑両講師は、講習に立ち、1、試合・審判規則の意義と役割、2、審判員の目的、3、審判員の役割、5、剣道試合・審判規則の運用などをいちいち丁寧に読み上げ、「この文のとおりやってみよう」と要望しました。従来講師が「後で読んでおいてくれるよう」言って読み飛ばした中身がほとんど受講者の頭に入っておらず、同じ間違いを続けている

例が多いことからの反省から、くどいほどの指摘であったようでした。講義のあと、実技実習が行われ

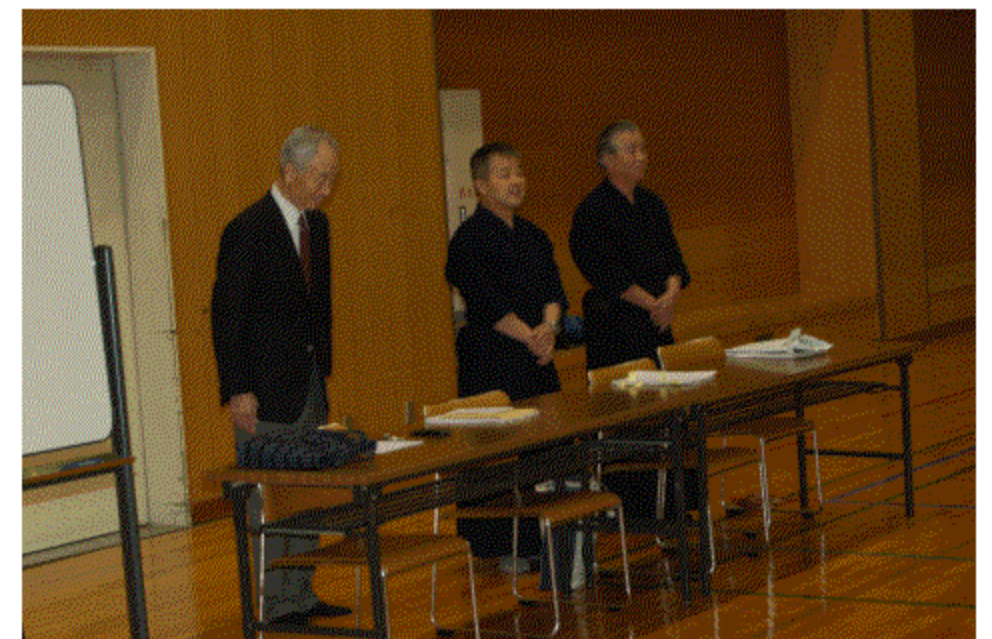


指導を受け熱心に受講する参加者

ました。短時間ではありましたが、受講者全員が審判実技を行いました。1コートのみで、参加者全員が見守る中、交代で高校生たちの試合を審判していききました。

審判員一人一人に講師が張り付き濃密な指導がなされました。長年審判をしてきた高段者といえども、あらためて自らの審判ぶりを見直すこと、改めるべきことや注意すべきことが多く見つかるのでした。

午前中、しかも最後に合同稽古が組まれていたので短時間しかできなかつたが、とても有意義な講習でした。ただ、世話に当たった成人指導



講師の神澤正、小椋、田畑各先生(左から)

部からみると、① まだまだ研修してほしいと期待される経験浅い対象者の先生方の参加が少なかつたこと。② 指導の第一線に立つてほしい7段の先生に欠席が多かつたこと。③ 連盟の最重要行事として、前もって予定されていたにもかかわらず、あえて他の行事をぶつつけたためにそれに手を取られ、参加できなかった会員が居たこと。などが残念であったようです。

本年度は東播少年剣道大会の会場当番が三木市であることを考えると質の高い審判員を多く作ることは喫緊の課題です。

「審判講習会」の後の約50分間、高校生を含め参加者全員が面を付けて稽古に汗を流しました。稽古には高村克人8段(三木北高校教師)や4月から三木東高校に着任した坂本隆文先生らも参加されました。

(報告 高橋洋三)

故人柄を偲ぶ 故安栖敏夫先生の

審判講習会が行われた4月13日(日)、昨年急逝された三木市剣道連盟指導顧問、故安栖敏夫先生の墓参法要が、市内府内町にある「本長寺」で行われ、有志23名が参加しました。午後3時から本長寺本堂において、山下揮正住職(三木剣連会員)の読経と一同の焼香の後、参加者全員が同寺境内にある安栖先生のお墓にお参りしました。

そのあと4時から寺の近くの「ながさわ」に移動し、「安栖敏夫先生を偲ぶ会」が始まりました。参加者全員が一人残らず安栖先生の思い出を語り、功績を称えて故人を偲びました。

